

ホフマン輪窯 6 号窯等展示活用事業
基本構想

令和 4 年 3 月

目次

I. 基本的な考え方の整理	1
I-1. 各施設の位置づけと役割の整理.....	4
I-2. 活用方針の検討.....	5
II. 展示活用方針の検討	6
II-1. 展示テーマの検討.....	6
II-2. 展示手法、活用方法の検討.....	9

I. 基本的な考え方の整理

■基本構想・基本計画策定の背景と目的

深谷市では、近代的な官庁街や鉄道等の整備を強く推進していた明治政府の意向を受け明治 20 年 (1887) に設立され、近代日本における煉瓦建築の普及に多大な影響を与えた日本煉瓦製造株式会社(以下「日本煉瓦」)の遺構であり、平成 9 年 (1997) に国の重要文化財に指定された「日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」(以下「旧煉瓦製造施設」)について、『重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設保存活用計画』(以下『計画』)に基づき、平成 31 年(2019)2 月よりホフマン輪窯 6 号窯本体 (以下「6 号窯」)の保存修理工事を開始、令和 6 年度(2024)中の完了と一部公開を目指しています。またその後、隣接地に管理活用棟(以下「活用棟」)の新設を予定しています。

本基本構想・計画の策定は 6 号窯における展示活用に関する基本構想・計画です。旧煉瓦製造施設の産業遺産としての魅力を発信するだけでなく、深谷市内外からの集客を見据えた展示公開施設として整備するとともに、新たに活用棟を設置し、既存施設を含めた周辺地域一体での情報発信を見据えたものであり、この日本煉瓦の歴史を語る上で欠かすことのできない、深谷市出身であり日本煉瓦設立者の一人である渋沢栄一翁の功績について「渋沢栄一記念館」と共に語り継ぐ施設とします。

■ ホフマン輪窯の概要

施設名称：ホフマン輪窯 6 号窯

施設所在：埼玉県深谷市上敷免 28-11

規模：長さ 56.5m、幅 20.0m、高さ 3.3m

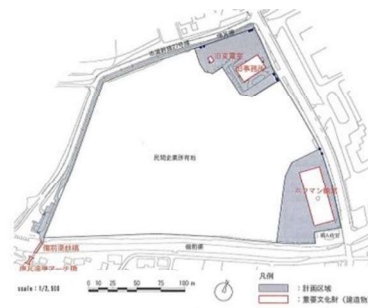
建築面積：1044.2 m²

構造：煉瓦造、煙突付、木造覆屋附属

その他：「重要文化財日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設」の構成施設のひとつ。



第 1 図 所在地位置図



第 2 図 敷地配置図

■ 構想・計画における重要な視点

本構想・計画において、下記の3つの視点を重要であると考え、方針を策定していきます。

○ 深谷市のポテンシャル

市内・広域観光の拠点となる展開

- －煉瓦のまちづくりを軸に歴史文化を市全体で体感できる機会が生まれている
- －渋沢栄一翁生誕の地など、社会的注目を浴びる観光資源
- －全国でも上位の生産を誇る農産物など深谷の特産品や、「ふかや花園プレミアムアウトレット」等の商業施設との連携

○ ホフマン輪窯の魅力

歴史的文化財の特徴を活かした体験

- －常に人気のコンテンツである「明治近代化」の礎を築いた重要文化財
- －輪窯が復元されることで、当時の情景をリアリティを持って感じられる
- －非日常的な窯の空間があることで「ここでしかできない」特別感が演出できる

○ 社会のニーズ

デジタル技術を活用した体感型の展示体験

- －モノ消費からコト消費へシフトした観光・学習体験
- －本物（リアル）に加え、映像（デジタル）を駆使した最先端の体験
- －シニアにも若者にも人気のある「レトロ」コンテンツ
- －SNS等を通じて発信したくなる特別な体験

■ 本施設のターゲットおよびコンセプト

本施設の整備にあたっては、煉瓦関連施設との連携・周遊の促進に寄与する観光拠点および、文化学習の拠点として、深谷市全体に多様な価値をもたらす事業を目指します。

○ ターゲット

- ・市内近隣から市外全域を含めた観光客
- ・市内外の児童・生徒
- ・市内外の歴史や文化財に関心を持つ個人・生涯学習団体・企業

○ コンセプト

1

煉瓦のつながりが生む
関連施設への周遊

- ・本施設が出发点となり、関連テーマの観光地への周遊を促す施策を展開
- ・市内近隣だけでなく深谷の煉瓦が使用された全国の建築とも連携することで広域での集客・周遊へつなげます

2

「煉瓦のまち深谷」
ブランディング

- ・ホフマン輪窯 6 号窯を筆頭に市内の文化財を継承するとともに、情報発信機能を強化
- ・日本の近代化に大きな影響を与え貢献した歴史ある街としてのイメージを形成
- ・ブランディングの浸透により、子どもから大人まで市民の煉瓦に対する深い愛着と誇りを醸成



「深谷れんが」のシンボル、

文化学習・観光の拠点へ

I-1. 各施設の位置づけと役割の整理

より深い体験をしたくなる体験ストーリーを実現するために活用棟・6号窯から重要文化財を構成する他施設へと周遊したくなる役割分担を検討します。

既存の日本煉瓦史料館に加え、新たに整備を行う活用棟、そして公開に向けて展示機能を持たせた6号窯の大きく3施設を主たる体験拠点とします。

下記のように体験ストーリーに沿って価値を体感してもらうことで、この施設が文化学習・観光拠点となり、その他市内各地への周遊を促すことを目指します。

○ 位置づけ

3つの施設について下記のように位置付けます。

1. 活用棟

最初に活用棟で**興味を持ち全体像を把握する**

来場者を迎えるガイドンス兼、煉瓦観光周遊の拠点として、旧煉瓦製造施設全体像から、現存する6号窯の価値のガイドンスを行います。

2. 6号窯

活用棟から6号窯に入り当時の様子を**想像し体感する**

本物の現場を活かし、製造工程や当時の熱を臨場感を持って体感します。

3. 日本煉瓦史料館

詳細な情報で**深掘りし価値に納得する**

他施設を紹介するとともに日本煉瓦史料館の展示を再構成することで詳細情報を学びます。

I-2. 活用方針の検討

I-1 で検討を行った各施設の役割を前提とし、ホフマン輪窯（活用棟・日本煉瓦史料館との連携を含む）の展示について、大きく3つの活用の軸を設けます。

1. 重要文化財の価値や魅力を伝える観光拠点として機能。あわせて観光周遊の拠点として機能を持たせます。

ホフマン輪窯の文化財としての価値や魅力にとどまらず、渋沢栄一翁や地元の名士たちとの関わりや、同じく重要文化財の旧変電室や備前渠鉄橋なども知ってもらうことにより、市内回遊を促す拠点として活用します。

2. 重要文化財の中での特別な体験を提供することにより、深谷市の名所のひとつとして定着を図ります。

歴史情緒を感じる空間で、思い出になる時間を過ごすことができる飲食スペースを設け、見学に訪れた人だけでなく、周辺観光をした人も訪れたいくなる、食と憩いの場となることを目指します。

3. 子どもたちから大人まで、歴史を生の体験として享受できる学習体験の場として提供します。

大人はもとより、学校の社会見学会用施設として子どもたちに学びの場として機能する展示内容を盛り込みます。教科書で写真を眺めるだけにとどまらず、実際の煉瓦製造の跡地としての息吹を現地で感じ、当時の様子をありありと想像できる展示整備を行うことで、質の高い学習体験を提供します。

II. 展示活用方針の検討

活用棟・6号窯・日本煉瓦史料館によって構成される本施設の展示体験は、1-2でも位置付けたように、歴史文化財の観光拠点としてその価値と渋沢栄一翁による会社設立の歴史を知り、体感し、周辺地域や市内を巡るきっかけとなる体験を提供する場づくりを行っていきます。また、それらの検討においては、6号窯の歴史的価値の保全と効果的な展示体験を共存させるものであることを前提とします。

II-1. 展示テーマの検討

活用棟・6号窯の展示体験では、展示テーマを検討していくにあたり、下記のようなコンセプトを定め、それを踏まえて検討してまいります。

○ 展示コンセプト

歴史を照らす 火を灯そう

明治時代、日本近代化の象徴となった煉瓦。
そんな時代の最先端、最前列で活躍した煉瓦を
焼き続けた日本一の窯が、ここ深谷にはあります。
あの時代、欧米に追い付け追い越せと走り続けた
先人の「情熱」「熱気」「熱意」の痕跡がこの窯には眠っているのです。
いま一度その火を灯し、歴史の熱を感じることができる展示とします。

○ コンセプトに基づく体験の方針

上記のコンセプトに基づく3つの「火を灯す」展示体験を提供することによって、この場での体験をきっかけに、もっと知りたくなる、関連施設にも行きたくなる「自分の心にも火を灯す」ような体験を目指します。

1. 非日常体験で火を灯す

窯そのものの非日常空間を楽しんでもらうため、奥行きのある内部空間を極力活かし、窯そのものが持つ想像力を掻き立てる力を余すことなく伝える空間づくりをします。

2. 探検をしながら火を灯す

来場者が自ら火を灯し、窯内部を探検するような参加型体験を盛り込むことで、楽しみながら学べるエデュテイメント体験を目指します。

3. デジタル技術で火を灯す

丁寧に復元された窯に当時のデジタル技術で火を灯す（情景をよみがえらせる）ことで、臨場感・特別感ある体験を目指します。

○ 展示のテーマ

窯の歴史的価値や煉瓦製造の仕組みを分かりやすく伝えるために、下記の展示テーマを設定し、展示手法の検討を行っていきます。

1. 近代化を支えた深谷の歴史と熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を知る（活用棟）

6号窯の持つ歴史的価値の背景には、煉瓦需要の背景にあった明治政府の想い、日本煉瓦の設立に携わった渋沢栄一翁、そして日々煉瓦を作り続け、近代化を支えた人たちの存在があります。歴史を知り、当時の熱情に想いを馳せる機会をつくります。

1-1. 導入として、深谷市が一体どのような歩みの中で、このホフマン輪窯が生まれたのかをより深く理解するため、深谷市の通史を訴求します。

1-2. 6号窯見学の期待感をつくるために、近代化を支えた深谷の熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を伝えます。

2. 窯での一連の工程フローを理解する(6号窯)

窯の中で行われる煉瓦製造の一連の流れである「窯詰」「焼成」「冷却」「窯出」の一連の流れを理解します。

2-1. 窯詰から窯出まで、窯内部での当時の様子を早送り体験することで輪窯の仕組みを楽しく臨場感をもって実感してもらいます。

3. 窯での各工程の「痕跡」を来場者自ら発見する(6号窯)

文化財の価値、当時の臨場感を来場者に体験してもらうために、窯内部に残された煉瓦製造の各工程において刻まれた「痕跡」を来場者自らが探し発見する体験を提供します。

- 3-1. 文化財の価値、当時の臨場感を体感いただくために窯内部に残された「痕跡」を来場者が探し火を灯す体験を提供します。

4. 当時の煉瓦製造の様子を体感・追想する(6号窯)

4つの製造工程について2で理解し、3で来場者に能動的に痕跡を発見してもらう体験を提供します。6号窯では「想像し体感する」ことを施設の位置づけとして軸にしているため、更に製造の様子を臨場感をもって体感してもらう展示を設けます。

- 4-1. 4つの製造工程について臨場感を持って感じていただくために製造時の様子を部分的に再現し、臨場感を演出します。
- 4-2. 当時を偲ばせるかつての6号窯の写真やそれに付随する記録等を展示することにより、当時の情景に想いを馳せます。

II-2. 展示手法、活用方法の検討

II-1 の展示のテーマと訴求内容を、どのような手法で来場者に伝えるかは、展示検討を行っていく上で非常に大切なポイントになります。これまでの項目で触れてきたように「体感・実感」を大切に考えながら、来場者に伝える工夫を凝らしていきます。

ここでは、II-1 で整理を行った展示のテーマと主な訴求内容について、どのような手法で来館者に伝えるかの整理を行います。そして、これらの展示をどの様に活用していくかの検討を行います。

○ 各展示テーマにおける手法について

展示1：シアター映像による展開

導入箇所：展示テーマ1(活用棟)

- 1-1. 導入として、深谷市が一体どのような歩みの中で、日本煉瓦と6号窯が生まれたのかをより深く理解するため、深谷市の通史をグラフィックと映像の複合演出で伝えます。
 - －深谷市の通史を一望できる歴史年表を展開します。
 - －特に近代史を厚く取り扱い、ホフマン輪窯、そしてこの6号窯の成り立ちと、渋沢栄一翁が深く関わる出来事については、スポット的に映像解説を組み込んでいきます。
- 1-2. 6号窯見学の期待感をつくるために、近代化を支えた深谷の熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を臨場感あふれる映像で紹介。
 - －歴史の中に入り込むような、ここでしかできない体験を提供するために、没入感・臨場感を高めるワイドスクリーンでの展開を検討。
 - －小学校や団体観光客の来場にも対応するために、40人程度が一度に入ることができる十分な座席スペースを確保します。

展示2：6号窯内部でのマッピング映像

導入箇所：展示テーマ2(6号窯)

- 2-1. 導入展示として、6号窯見学の期待感をつくるために、近代化を支えた深谷の熱情、煉瓦製造施設の成り立ちや当時の様子を臨場感あふれるマッピング投影映像で紹介。
 - －スクリーン背面から映像投影することで観覧者の視界を遮らず臨場感を生み出します。
 - －工程の状況や、時間経過を表示することで、一連のフローをわかりやすく紹介します。
 - －焼成室の断面をスクリーンとすることで、窯内部で何が行われていたかを映像で見せます。

展示3：来場者自らが“ライトをかざす”ことによりアクションが起こる体験展示

導入箇所：展示テーマ3（6号窯）

- 3-1. 文化財の価値、当時の臨場感を体感いただくために窯内部に残された「痕跡」を来場者が探し火を灯す体験を提供
- － 「痕跡」に「火を灯す＝ライトをかざす」と、「痕跡」に映像がプロジェクションされ、何の痕跡なのかの解説を表示します。
 - － 「火を灯す＝ライトをかざす」ここだけのオリジナル体験は想像力を掻き立て、照らしてみないと何が待っているのかわからない体験がワクワク感を呼ぶとともに、集中することで学びに繋げていきます。

展示4：内部の様子を部分的に再現する迫力の映像

導入箇所：展示テーマ4（6号窯）

- 4-1. 4つの製造工程について臨場感を持って感じていただくために製造時の様子を部分的に再現し、臨場感を演出します。
- － 窯詰め、焼成、冷却、窯出しの4工程を紹介する体験とします。
 - － 各工程のイメージが分かるように窯内部に部分的に情景再現することで、その工程の臨場感・当時の迫力を演出いたします。
 - － 工程について解説するサイングラフィックは各工程に共通して設置し、具体的な内容を伝えます。

展示5：在りし日の6号窯に想いを馳せる写真展示

導入箇所：展示テーマ（6号窯 飲食スペース）

- 5-1. 展示体験を経て飲食を楽しむ方にも、飲食スペースのみの利用の方にも楽しんでいただきながら、当時の深谷市の暮らしや6号窯の様子を伝える写真や資料を掲示します。
- － 6号窯が全盛期に稼働していた頃の深谷市の街や人々の様子を伝える写真や資料で、深谷市の歴史・文化に触れてもらいます。
 - － 当時の6号窯で働く人や、内部の様子分かる写真や関連資料で、当時の6号窯の情景に想いを馳せてもらいます。

○ 活用の展開について

ここまで整理を行って来た展示テーマや手法、そして飲食スペースのコンセプトを踏まえ、軸となる展示体験・訴求に加え、下記のような活用の展開も想定します。

市内周遊の拠点

この6号窯での展示体験を足掛かりに、更に深谷市の様々な歴史文化拠点、そして観光拠点に足を伸ばしてもらえよう、活用棟や日本煉瓦史料館に、関連施設や注目スポットの情報を展示と紐づけて掲示し、興味喚起や次のアクションに繋がります。

- －深谷市の文化・産業を軸とした周遊拠点
- －渋沢栄一翁ゆかりの地としての周遊拠点
- －深谷市の観光・商業施設と連携した周遊拠点

学校教育や生涯学習のための利用

市内外の学校や生涯学習団体など、子どもたちから大人まで、深谷市の貴重な歴史・文化を感じてもらえることができる学習拠点として機能する施設とします。

企業利用

深谷市に拠点を構える企業や、市外においても深谷市の産業・文化に携わる仕事に従事する人たちに、機械式煉瓦生産発祥の地として、そして深谷の歴史・文化を伝える場として、企業の研修利用や、ステークホルダーへの案内などにも活用できる施設とします。

特色のある飲食体験

飲食を目的で訪れた人も展示に興味を持つような展示・演出の他、地域特産品を使ったメニュー提供などにより、特色のある飲食体験を提供できる工夫を行います。